

アルプスと海をつなぐ「梅海新道」開通 50 周年記念登山

朝日岳・犬ヶ岳・白鳥山縦走

報告者 渡辺 茂



梅海新道完歩 日本海到着 バンザーイ

2021年の夏、梅海新道全線開通から50年を迎えましたが新型コロナウイルス感染防止のため、宿泊を伴う山行は出来ず、遅ればせながら本年、全線開通50周年を祝した梅海新道登山を実施した。梅海新道は、日本海の高尾山(0m)から白鳥山(1,286.9m)、犬ヶ岳(1,592m)を経て朝日岳(2,418m)を結ぶ北アルプス最北部の縦走路。特に朝日岳と黒岩平の間にある「アヤメ平」の名前の由来となったヒオウギアヤメなど、さまざまな高山植物が咲き誇り、北アルプスの桃源郷と言われている。

日時：2022年8月4日(木)～7日(日)

メンバー：渡辺 茂、後藤 正弘、遠藤 俊一、井口 光利、佐藤 博、君 清、井口 礼子

・8/4(木)：新潟～糸魚川～根知集落(岳修山荘(泊))

日本山岳会越後支部会員でもある梅海岳友会、鶴本氏の山荘に集合し「梅海新道」のスライド鑑賞し魅力について懇談した。梅海新道は初めてのメンバーが3人おり、あの、天空の縦走路が晴れることを期待し就寝とした。

・8/5(金)：岳修山荘-親不知観光ホテル-北又小屋 7:05-5 合目 9:30-イブリ山 11:40-朝日小屋 14:45(泊)

5時前に親不知観光ホテル駐車場に向け出発。駐車場には予約したジャンボタクシーがすでに待機しており荷物の点検を行い乗車、登山口の北又小屋に7時前に到着、朝食をとり出発前の元気な笑顔を写真に収め、朝日小屋に向け出発した。まずは北又川にかかる吊り橋を渡りイブリ尾根に取り付く。登山口は標高700m前後と涼しいが、ブナの原生林の急坂を汗を流しながらイブリ山への各『山頂標識』を目指した登高である。5合目に水場の案内看板があり3分ほど行くと水場があった。久々の重いザックで汗を掻いての冷たい「水」は美味しかった。7合目からは徒歩10分前後で『山頂標識』があり予定時間にイブリ山に着くことが出来た。イブリ山から少し下り、クサリのある岩場を過ぎるとようやく木道の斜面や両脇に花々が咲き、さらに進むと残雪に覆われた夕日ヶ原に出た。雪溪の「水」で喉を潤してかメンバー全員、元気モリモリのような様子である。夕日ヶ原からは草原地帯となり、群生のチングルマやムシトリスマレなど様々な花を観ることができた。ここから緩やかな斜面を上ると朝日平となり、木道の先に赤い三角屋根の朝日小屋、両脇には残雪と疲れを忘れさせる風景となった。朝日小屋に到着すると検温、受付を済ませ、私たちのみの広い部屋で寛ぐことができた。ここまで来ればやることは一つ、早速、小屋前のテーブルで明日に備えての祝宴とした。夕食時には蓮華温泉、白馬岳頂上小屋でコロナが発症し営業自粛したとのこと。

・8/6(土)：朝日小屋 5:30-朝日岳 6:40-アヤメ平 9:00-黒岩平 11:30-サワガニ山 13:30-梅海山荘(泊) 15:40

5時、外に出ると大きな山容の雪倉岳、白馬岳が朝日に照らされ眼前でつかく聳えていた。外はチョット寒い。今日の歩行距離は長い。コロナの関係から朝食サービスは無し、出発前に女将さんと(清水ゆかりさん)小屋前で記念写真を撮り、小屋で買った寿司を持ち山頂を目指す。途中には花々が咲き、背後には劔岳、大日岳、毛勝三山を見ることが出来た。山頂から「吹上のコル」までが雪田がある花街道となり多種多様な花々が咲き誇り、画像を収めるため、朝日岳から「吹上のコル」まで1時間を要したみちくさタイムとなった。「吹上のコ

ル」から草原帯を進むと高層湿原の中にエメラルドグリーン「照葉の池」が現れ後方に白馬岳、雪倉岳がそびえる絶景であった。さらに進むと広い台地のザラ道となり右側に長楯山の山頂看板が見えるがロープが張られ山頂に立つことはできなかった。ここから樹林帯の下りとなるが、このルートをよく切り開いた先人の苦勞を知ることができた。眼下には桃源郷といわれるアヤマ平であり、木道沿いにヒオウギアヤマが名残惜しそうに咲いていた。またまた樹林帯を抜け急斜面を降り、小川を渡るとベンチのある黒岩平であった。小川の脇にはリュウキンカやチングルマが咲いていたが昔の記憶とは違った景色となっていた。このベンチでお湯を沸かし美味しいコーヒータイトとした。梅海新道は真に花々が咲き誇る、天空の楽園であり、ここを訪れることはこれが最後か。さらに木道を進むと池や沢の周囲はチングルマの群生地、ミヤマキンポウゲ、ハクサンフクロなどの花畑となっていた。この先の緩い傾斜を登ると黒岩山となり、この先のサワガニ山 1612m(1612M ピークは二つある)を確認し進むと蘆本氏が言われた登山道の崩落地の迂回路に出た。昨年ハイマツ帯を切り開いた新しい道であり、枝の上を歩く登山道であるが通行できることはありがたい。距離は短い登山道を造ることは難儀な事である。先方には犬ヶ岳と赤い屋根の梅海山荘、左前方には初雪山が見える。この先のピークを越えれば水場と思っていたら狭い草原帯の鞍部に「北俣ノ水場」の案内板があった。なんだ、これを登れば犬ヶ岳の山頂ではないか。(昔の記憶は当てにならない)みんなで水を補給し10分ほど登ると犬ヶ岳山頂であった。登頂記念の写真を撮り15時40分、梅海山荘へ到着した。荷物を小屋に入れ、外のテーブルで乾杯とした。今日も晴れて後方にはでっかく聳える朝日岳や高妻山、戸隠山、黒姫、海谷山塊を楽しむことが出来た。

・8/7(日)：梅海山荘 6:00-菊石山 8:00-白鳥山 10:10-坂田峠 13:20-日本海親不知海岸 16:20

今日が最終日となった。今日も晴れ、朝食を済ませ6時出発。スタートは長い下りで少し登ると狭い平坦な黄連山の小さな看板があり、菊石山直下の水場まで休憩なして進むと涼風が吹き抜ける心地よいぶな林の気持ちの良い休憩地があった。ここからアップダウンを繰り返して登りきると菊石山の山頂であった。みんなでアンモナイトを探す山頂付近には石ころは無かった。山頂から少し降りると石ころが沢山あり、探してみたが手に入れることはできなかった。いよいよ最後の急登を登ると下駒ヶ岳で白鳥山はもうすぐだ。白鳥山には廣井さんが待っていることになっている。白鳥山頂直下でメンバーの誰かがオーイと呼んでいる。早速、廣井さんから応答があり、数分で山頂に着くことが出来た。全員で記念写真を撮り、廣井さんからの冷凍果実の差し入れを頂き美味しく頂いた。あとは下るのみ、シキ割りの水場で昼食とし急坂を慎重に降りると坂田峠に出た。ここから尻高山、二本松峠を経て入道山を越えて親不知観光ホテルに到着、さらに5分ほど階段を降りると日本海であった。今まで深い山の中を歩き、目の前の海にたどり着くと今回計画した梅海新道を完歩した実感が湧いてきた。



朝日小屋の女将さん(清水ゆかりさん)と



朝日小屋で乾杯



夕日ヶ原でちょっと休憩、まだまだ元気



白馬岳遠望



天空の楽園、草原帯を行く



気持ちの良い縦走路



疲れました。犬ヶ岳山頂



朝日を浴びた梅海山荘

梅海新道 天空の樂園に咲く多種多様な花々から選んだ花10選

1. カライトソウ
2. ヒオウギアヤメ
3. シロウマアサツキ
4. ハクサンコザクラ
5. ムシトリスミレ
6. ミヤマアズマギク
7. タカネシオガマ
8. クロトウヒレン
9. イワツメクサ
10. チングルマ

多種多様な沢山の花々の中から井口礼子さんから選んでもらいました。

以上